

ながおかワーク&ライフセミナー第2講座を開催しました

## ～ひきこもりと地域のつながりを考える～

2月5日、「ひきこもりと地域のつながりセミナー」をアオーレ長岡で開催し、約90名の市民の皆さんに参加いただきました。地域の中で孤立しがちな「ひきこもり」や「不登校」の問題について、実際に支援活動を行っている団体の取り組みを通して理解を深め、地域とのつながりの大切さを考えることを目的とした講座です。

はじめに、主催者を代表して長岡地区労福協松嶋副会長があいさつを行い、「誰もが地域の中で安心して暮らせる社会を実現するために、さまざまな立場の人がつながることが大切」と呼びかけました。続いて来賓として、農林水産省北陸農政局都市農村交流課の横内真一課長から、農山漁村振興交付金を活用した地域の取り組みへの期待が述べられました。



今回のセミナーでは、ひきこもりや不登校の支援に取り組む3つの団体が登壇し、それぞれの活動を映像も交えて紹介しました。

まず、認定NPO法人UNE代表理事の家老洋さんから、長岡市栃尾地域で行っている取り組みが紹介されました。UNEでは、障がいのある方や高齢者、生活に困難を抱える方、ひきこもりの方などが、農業や加工の仕事を通して社会と関わる機会をつくり、地域の中で役割を持ちながら生活できる環境づくりを進めています。

次に、北陸青少年自立援助センター理事長の川又直さんが、富山県にある「ピースフルハウスはぐれ雲」の活動を紹介しました。ここでは、不登校やひきこもりの若者が自然豊かな環境の中で共同生活を送りながら農作業などに取り組み、自立に向けて一歩ずつ歩みを進めています。これまでに400人以上の若者がここから社会へ巣立っていきました。

また、十日町市で活動するフォルトネット代表の関口美智江さんからは、居場所「ねころんだ」の取り組みが紹介されました。ここでは、不登校やひきこもりの当事者や家

族が安心して集まり、話をしたり相談したりできる場を提供しています。人とのつながりを取り戻す「居場所」の存在が、社会参加への第一歩になることが語られました。

第1部では、UNE 事業部長の関樹道さんが「ひきこもりと不登校の現状」について報告しました。日本では、ひきこもりの方を支援する制度がまだ十分とは言えず、支援の入り口が分かりにくいという課題があります。また、相談窓口はあっても、日常生活を支える継続的な支援が不足しているという指摘もありました。今後は、早期発見や予防、関係機関の連携、そして本人や家族に寄り添う支援体制づくりが重要になると提起されました。

第2部では、3団体によるパネルディスカッションを行いました。UNEのように地域に通いながら活動する「通所型」の支援、はぐれ雲のように生活を共にする「合宿型」の支援、フォルトネットのように安心して集まれる「居場所型」の支援など、それぞれの特徴が紹介されました。また、共通する課題として、相談だけでなく家庭訪問など一歩踏み込んだ支援ができる人材の育成を行政に期待する声も上がりました。



最後の質疑応答では、ひきこもりの子どもを持つ父親から「どうすれば本人を支援団体につなげることができるのか」という切実な質問が寄せられました。会場では、同じ悩みを抱える人が少なくないこと、そして地域の理解と支え合いが大切であることを改めて感じる時間となりました。

今回のセミナーを通して、ひきこもりや不登校の問題は決して特別なものではなく、地域社会全体で向き合い、支えていくことが重要であることを共有する機会となりました。今後も、誰もが孤立することなく安心して暮らせる地域づくりに向けた取り組みを進めていきます。